

長坂家資料について

長坂家資料 2 2 3 点は、平成 7 年の夏、東高遠の倉科氏を通して長坂家より当館へ寄贈された文書である。

長坂家の出自は、現在の山梨県長坂町辺りを領した郷土の一族であったが、戦禍を逃れて甲州を落ちのび、北沢の峠を超えて高遠の地に至り、ここに住居を構えたと伝えられている。

内藤氏が高遠に入封した後、宝永の頃から長坂家は、内藤藩に勤仕するようになったらしい。長坂家の御役は、御先手組に属する組子として藩主の参勤のお供をしたり、また、御坊主勤めとして、御料理方、御賄い方などを勤めた。

藩士は一般には、藩が用意する拝領屋敷に居住するものであるが、長坂家は、自分屋敷を持っていて、そこに住み、御城勤めをしながら、同時に板町村の村役人としての暮らしも持っていた。従って長坂家資料もまた、藩の御役に関するものと、板町村に関する地方資料の両方が混在しているところに特徴がある。

また、明治維新以後は、板町村の住民惣代として。地券の切り替えや、小金沢をめぐるむずかしい山論などの解決のために、東奔西走したらしく、これらに関する多くの記録が残っている。

私文書としては、幕末から明治四十年代にわたる日記が、ほぼ欠けることなく残されており、丹念な冠婚葬祭の記録や、火事や病気の見舞品などの記録からは、当時の人々の暮らしぶりや、助け合いの様子などが伺える。

平成 7 年 9 月

追加資料は、平成 1 7 年 6 月長坂家ふすまの下張りに使われていたものを寄贈された資料である。

令和 7 年 1 0 月

高遠町図書館